

支那駐屯歩兵第三連隊恩丁

陸軍大佐 森田庄作

年月日	概 要
昭三三二四 四七	連隊の編成 支那駐屯歩兵第三連隊編成せられ次で 初代連隊長宮崎大佐は官中に参内候渾なる勅語と共に軍旗一旅を拝授し茲に 連隊の団結を完整す
〃 六三	第二七師団編成下令せられ其の隷下に入る 編成完結後の主要参加作戦警備及主要記事
昭三三二四	連隊は北京に於て編成を完結し、 北京附近の警備
四九 七五 七〇	保交に現駐保定附近の警備 徐州作戦に参加（一大隊）
六三	第二七師団編成隷下に入る

<p>形五二、一 三〇一九</p> <p>一、一〇 三二八</p>	<p>形五二、一 三〇一九</p> <p>八八九 五二九</p> <p>八八二 八八</p> <p>三三二 五二〇</p> <p>三、一五</p> <p>六、六七 五三二</p> <p>一、一五</p> <p>三、一五</p>	<p>形五二、一 三〇一九</p> <p>一、一〇 三二八</p>	<p>武蔵作戦に参加</p> <p>河北省渤海艦警備</p> <p>大東亜戦役勃発</p> <p>河北省冀東艦警備</p> <p>滿州口錦州省錦界に投駐</p> <p>〃 〃 附近の警備</p> <p>獨逸下令</p> <p>京漢作戦参加</p> <p>湘桂作戦才一團に参加</p> <p>東部衛陽道掃蕩作戦に参加</p> <p>茶陵附近の警備</p> <p>遂寧地区攻堅戦参加</p>
---	---	---	---

0313

566

1740

昭三三 五一〇	新城附近警備並曲江附近集結
三三九 四二五	贛県附近の討伐に参加
四三八 五三八	乳源附近の討伐に参加
六一五 七五	三南作戦参加
七六 八一七	江西作戦参加
八一七	十四日附停戦の大詔を揮す
八一八	江西省南昌贛古樟園に於て軍機奉焼す
九十四	常州地区に兵力集結
昭三三 三三九	上海集結
三二八	上海出帆
三三三	博多港上陸
三三三	復員式終了

5670

1741

初代	白田三三三 至昭和四年三三一	陸軍少佐	宮崎富雄
二代	昭和四一〇 天四一九	〃	渡左匠
三代	天四三〇 一七、三三一	陸軍大佐	山本 嘉
四代	一七、四一〇 昭和三六	〃	小野 修
五代	昭和三一〇 〃二	〃	森田 在 依

丁代陣隊長氏名

中  
々  
々  
々  
々

々  
々  
々

~668~

1742

第七師団山砲兵ヲニ七連隊畧ス

陸軍大臣 村上誠一

年月日	概 要
昭二、五、一五	連隊の起源 秦皇島に於て支那駐屯砲兵連隊山砲二中隊一五榴二中隊創立せりる。 天津東邦司兵營に發駐シ尔后天津附近の警備に任事 連隊の編成
昭三、三、一	山砲二大隊(田中隊)野戦重砲(十五榴)一大隊(ニ中隊)に編成改正せらる。
大、三、一	ヤエ七師団編成下令せられ其の隸下に入り山砲兵ヲニ七連隊と改稱。同時魏 劉中隊、山砲二大隊、野戦重砲(十五榴)一大隊(各ニ中隊)に編成改正せ らる。
昭四、三、一	山砲二大隊、十榴一大隊(各ニ中隊)に編成改正せらる。
一八、六、二六	山砲三大隊(各ニ中隊)に編成改正せらる。

~569~

中支外

昭二七、七七	編成完結の主要参加作戦整備及主要記事
三、七、八 、五、三	北支事変勃発
三、五、二四 三、五	北京天津地区の戦斗、平漢線及天津附近の整備
三、六 四、二四	太原作戦に参加
三、四、二五 七、一五	北京附近の整備
六、二一	徐州作戦に参加
八、二七 八、三二	オニ七師団編成隷下に入る
九、一五 二、一八	南京附近の整備
一、一、二二 五、二五	武漢作戦に参加
五、二六 七、二六	天津附近の整備
九、二五 二、二四	冀東作戦に参加
三、二八	オニ三大隊主力鄭州作戦参加
	大東亞戦役勃発

5700

1744

昭五、五、一三 九、一三	才二大隊主力浙贛作戰に参加
一六八二	贛州口錦州省錦州(才三大隊は奉天省城)に移駐
昭五、三、一三	錦州(海城)附近の警備
三九	勤員下令
三、一四 二、二一	京漢作戦参加
八八	湘桂作戦に参加
八、九	東部銜陽道掃蕩作戦に参加
昭五、一、九	湖廣省收束(本部、才一大隊)
	茶陵(才二大隊) 求陽(才三大隊)各隊
	瀘州地区の警備
二、一六 二、一八	越嶲地区攻勢戦に参加
三、一 三、三	贛州附近の警備並に惠州附近集結
五、四 七、五	三南作戦に参加

(571)

昭和三十六  
八五

昭和三十六

九一四

昭和三十九

三一九

三二二  
三二二

三二三

五三

江西作戦に参加

十四日附停戦の大詔を拝す

常丹地区に兵力集結

上海集結

出帆

博多路上陸

飯貞式終了

飯貞完結(二日市)

二代連隊長氏名

代	在任期間	官	氏名
初代	一年二月一日	大佐	鈴木 澤道
二代	一年四月	大佐	小林 信男

75720

1746



氏支内  
148

五代	四代	三代
五年一月	一年五月	一年三月
〃	〃	〃
村上 誠一	山本 清衛	永野 叢人

573

1747

工兵才干七聯隊累歴

陸軍中佐 橋本時夫

年月日	統 要
昭三、四、五	<p>軍令陸甲ヲ五号に依り支那駐屯軍編制下令せられ工兵才十大隊才一中隊を以て支那駐屯工兵隊編成せられ、之れ当聯隊の起源にして當時に於ける部隊の編成は本部、一中隊にして河北省天津に駐屯し同地附近の警備並に居留民の保護に任ず</p> <p>聯隊編成</p> <p>軍令陸甲才三四号に依り工兵才二七聯隊編制下令せられ、支那駐屯工兵隊を以て本部、才一中隊を工兵才十一聯隊の一中隊を以て才二中隊を編成し南京に於て編成を完結す</p> <p>初代聯隊長 陸軍工兵中佐 小川 三郎</p> <p>聯隊の編成左の如し</p> <p>聯隊本部 才一中隊 才二中隊</p>
昭三、六、一	

1748

中支米 146

三三六二一	編成完結後の主要参加作戦警備及主要記事
三七二八 三三九	才二七師団編成兼下に入る
三三三二一 六八二〇	武漢作戦に参加
四三三二〇 三三九	天津附近の警備
	英租界封鎖に方リ英佛租界周辺の鉄条網の構築並に日本租界伊太利租界向白
	河に耐重箱（水橋）の架設作業を実施す
六三二 九一〇	瀋陽作戦に参加
七二七 七二〇	河北省天津附近未曾有の大洪水に際し氾濫構築排水作業等に從事す
七二四 七二〇	中京会に参加
五二五 八二〇	冀東道肅正作戦に参加
八二八 九二九	青洲作戦に参加
一三八 三三八	大東亞戦役勲表
三三七	唐山崩壊被災の警備

1749

昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九	昭和三十九
湘隴作戦に参加	軍令陸甲カ三六号に依り編制下令	独立混成才大波田士兵隊を基幹とし之才三中隊を編成す。	編成完結	滿州口奉天省營口に現駐す。	〃	〃 宮田附近の警備	勅頭下令	京漢作戦に参加	湘桂作戦に参加	東部衛陽道掃蕩作戦に参加	茶陵耒陽附近の警備	遂賴地区攻畧作戦に参加	韓州附近の警備並に朝州集結		

昭和三十九

五 七 四	三 南 各 戦 に 参 加
七 六	江 西 各 戦 に 参 加
八 一 七	一 回 日 附 停 戦 の 大 詔 を 拝 す
九 一 六	滄 州 地 区 に 兵 力 集 結
昭 三、 三 七	上 海 集 結
三 一 八	上 海 出 帆
三 二 三	博 多 港 上 陸
	飯 岡 集 結

3770

1751

丁代聯隊長 氏名

代	在職期間	官	氏名
一代	白船二、四、五、〇、一、二、三	少佐	石川 省三
二代	〇、一、二、三、四、五、六、七	少佐	大賀 茂久治
三代	〇、一、二、三、四、五、六、七	大佐	小川 三郎
四代	〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	中佐	小玉 鉄太郎
五代	〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	中佐	村上 義雄
六代	〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	中佐	橋本 時夫

1528

輜重兵才二十七聯隊畧史

陸軍中佐 原田 富士太

年月日	概 要
昭三、七、六	<p>聯隊の縮減及兼結 縮減下命</p>
昭三、七、一〇	<p>輜重兵才二十七聯隊本部及才一中隊は善願寺、才三中隊は高島才三中隊は東京に於て各々縮減を完結す、</p>
七、一七	<p>聯隊本部及才一中隊は四國及出港同年七月二十一日</p>
昭三、八、三〇	<p>才二中隊は宇呂港才三中隊は岳川港を夫々出港と共に才二十七師団の轄下に入</p>
昭三、八、三〇	<p>二、一〇</p>
昭三、八、三〇	<p>編成並に兼結完了後の主要参加依職整備及主要事項 武漢作戦参加 北支に転進</p>
昭三、八、三〇	<p>三、二五</p>
昭三、八、三〇	<p>四、一四</p>

1753

昭和三十四 八六三	昭和三十四 四一〇	昭和三十四 六四一〇 七一〇	昭和三十四 天七	昭和三十四 七一三 九三〇	昭和三十四 〇二〇 三七	昭和三十四 三三八	昭和三十四 七三六	昭和三十四 八六四	昭和三十四 八四四 五三五	昭和三十四 五三一五	昭和三十四 三二〇 五二一
北支河北省秦皇島附近の警備	聯隊本部及び中隊を秦皇島第一中隊を換隊果に配属す。	中隊を戦参加	第百陸軍甲種十五号に據り編成改正独立自動車中隊を第四中隊として編入 同年七月二十九日完結	東部冀東省掃蕩作戦参加	第二次魯南作戦参加（混成隊隊中隊）	大東亜戦役勃発	編成改正	滿州口錦州省錦縣駐	、 、 附近の警備	勲員下命	京漢作戦参加



其支内

昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日	昭和三十九年 三月三十一日
上海出帆	上海乗船	兵船に帰駐乗船	常州地区に兵力乗船	十四日附停戦の大詔を拝す	江面作戦参加	三浦作戦参加並に蕨州附近乗船	蕨州附近警備並に蕨州附近乗船	遠征地区及恩作戦参加	安仁正面掃蕩作戦参加（其馬子中隊）

昭三三三三〇

五二

博多港上陸

復員完結

復員部隊名

輜重兵才二七聯隊

人員

聯隊長 陸軍中佐

原田富士太

以下五七一各

内

一	中佐
一一	大尉
一五	中尉
四	少尉
三	准士官
一一六	下士官
四三〇	兵
五七一	計

復員時に於ける入院者 九三名

縮減以来の死亡者 四七四名

行方不明者 一一名

逃亡者 二名

0051

7582

1756

					歴代隊長氏名
代	在職期間	官	氏名		
第一代	自昭三、七、六、〇 至昭三、八、五	陸軍中佐	石川 鉄郎		
第二代	〃 天、三、一、〇 〃 天、三、一	大佐	町田 勇		
第三代	〃 天、三、一、〇 〃 天、三、一	中佐	中面 学		
第四代	〃 天、三、一、〇 〃 天、三、一	中佐	原田 富士太		

1757

1757

<p>第三八師團通信隊取次</p> <p>陸軍大尉 香西行良</p>	<p>年月日</p> <p>新 課</p>	<p>昭三七五 七 八三三</p> <p>昭三九一五 三三 三三 三三 三三 三三</p>	<p>才三八師團通信隊編成下令 歩兵ヲ十二連隊に於て編成完結 坂出港出帆ハ八二六上陸 ハ五南京着 才二七師團の隷下に入る 編成完結後の主要参加員收整備及主要記事 武漢作戦参加 天津附近の警備 大東亞戦役勃発 天津英仏租界進駐</p>
------------------------------------	-----------------------	---	--

1758

山支の心  
い  
と  
う

一、九一六 三、三〇	昭六、七、三一	五、三一五	三、二五 五、一一	五、一一 八、八	八、九 一〇、三二	昭五、一、九	五、二、九 三、三	昭五、一、〇 二、三六	三、一 六、三	六、四 七、五	七、六 八、七
冀東地区蘭正作戦参加	滿州口錦州省錦州へ移駐	勤員下令	京漢作戦に参加	湘桂作戦に り	東部衡陽道掃蕩作戦に参加	收泉（采田、茶陵、寧仁、東陽）附近の警備	寧仁正面掃蕩作戦に参加	遼東地区公路作戦に参加 遼東新城附近の警備	瀋陽附近警備並に遼東附近警備	三南作戦に参加（瀋陽附近集結）	江西作戦に参加

中支本

昭三、三、二一	昭三、三、二一	八月十四日附 大船を揮す
九一四	九一四	英領地区に兵力練結
三、三六	三、三六	上海集結
三、三〇	三、三〇	上海出帆
三、三〇	三、三〇	博多海上陸
三、三〇	三、三〇	復員式等行
歴代通信隊長氏名		
初代 昭一三、七七	昭一三、一〇、五	陸軍少佐 江口 龜
二代 " " 〇、五	" 六、三、六	同 朝井 憲 章
三代 " 一六、二、六	" 八、〇、五	大 尉 中島 平 吉
四代 " 八、二、五	" 三、〇、七、一	同 鳳 正 文
五代 " 二、〇、七、一	" 二、二、一	同 香 西 行 良

7586

1760

第二七師團兵器勤務隊畧歴

陸軍技術大尉 鈴木俊之助

年月日	概 要
昭三、六月	野砲兵第一連隊に於て編成同日二士日、第二七師團編成下令せらる其の隷下に入る。
昭三、七、二五 三、三、二七	編成完結後の主要参加作戦警備及主要記事
三、三、二八 六、七、三〇	武漢作戦に参加
六、三、八	河北省天津に駐屯同地警備
七、九、一七 二、二、二二	大東亞戦役勃発
八、七、三一	冀東地区廓正作戦に参加
八、七、三一 一、三、一五	滿州口錦州省錦県に移駐 錦県附近の警備

1761





甲支内 145

七、六  
八、七

江西作戦に参加

八、七

十四日附停戦の大詔を拝す

九、七

江蘇省興錫地区採結

昭三、三一七

上海果結

三、三二

上海出帆

三、二五

南支港上陸

三、二五

復讐完結

丁代部隊長氏名

代

丁一代

自昭三、六、一〇至三、二

少佐

鈴木忠敬

丁二代

昭三、二、一〇至三、二、一〇

少尉

小松忠男

丁三代

昭三、五、一〇至三、五、三

大尉

菅原竹次郎

丁四代

昭三、五、三〇至三、六、三

大尉

金光忠次郎

甲辰  
9  
9

初五代	自一六三	〳	至昭天、一〇	授中尉	小	忠	男
初六代	一六〇	〳	一七、一	授中尉	松	亦	榮
初七代	一七、一	〳	五、〇、二	少佐	山	崎	清
初八代	一五、〇、三	〳		授大尉	松	本	茂
					之		則

590

1764

4多915

第二七师团カ一野戦病院累丁

陸軍少佐 紺谷信一

年月日	概略
昭三、六二一 七、一四	<p>病院の編成 カ二七师团編成下令せりる。 本島に於てカ二七师团カ一野戦病院、編成完結 初代病院長、本多軍医大尉 同日カ二七师团の隷下に入る。 編成完結後の重要参加者整備及主要諸事、 武漢作戦に参加</p>
昭三、七二五 八、二二 一七、二一 一七、二一 一七、二一 一七、二一	<p>河北省豫東道警備並秦皇島及唐山に於て野戦病院解散 大東亞戦局勃発 南支那に転用の為、舊 出発 カ二三師の指揮下に入る</p>

1765

昭七、二二五 三〇一	一三、三三	昭六、一〇 七三三	八八一	下八一 五三五	九六一 九二九	五三二 五一	三二九 四七	五五二 五五	五五 五六
<p>広東省宝安縣九蓮に於て陸軍病院開設並陸軍病院開設</p> <p>ヤ二三軍の指揮下を高山原所</p> <p>河北省滄州及唐山に於て野戦病院開設並に同地附近の整備</p> <p>滿甘回錦甘省級中に設駐</p> <p>附近の整備</p> <p>熱河省瀋正作戦に参加、熱河省平泉に於て野戦病院開設</p> <p>勅令下令</p> <p>赤漢作戦に参加</p> <p>河南省輝庭に於て野戦病院開設</p> <p>盤龍に於て野戦病院開設</p> <p>関庄に於て</p>									

中及内150

八七六 八七	七五 七五	五三 五三	二二 二二	二二 二二	一八 一八	一八 一八	一八 一八	七二 七二	七二 七二	六五 六五	八二 八二	五二 五二
江南作戦に参加	三南作戦に参加	江西省果附近の警備並に広東省惠州附近果結	江西省遂川果遂川に於て患者療養所用敵	遂贛地区攻畧作戦に参加	湖南省茶陵果茶陵に於て野戦病院開設並に同地附近の警備	江西省萍鄉果又橋に於て野戦病院開設	湖南省醴陵果將軍營に於て野戦病院開設	湖南省平江果鍾家大臣に於て野戦病院開設	湘桂作戦に参加			

昭

昭

5930

1767

昭和三十七

九一七

五、一〇  
二、一三

昭三、三、六  
昭三、一、一七

昭三、三、一七

三三六

三三〇

十四日附停戦の大詔五拜す

江蘇省無錫地区に兵力集結

無錫県無錫に於て野戦病院開設

無錫県五里湖畔象岫園に於て野戦病院開設

上海集結

上海出帆

博多港上陸

復員帰船

### 歴代病院長 氏名

代	在任期間	官	氏名
---	------	---	----

初代	昭三、七、一四 ~ 昭三、九、九	陸軍少佐	本多 修二郎
----	------------------	------	--------

二代	昭三、一〇、八 ~ 昭三、一〇、一八	大尉	土井 正雄
----	--------------------	----	-------

三代	昭三、三、三、一 ~ 昭三、三、三、一	少佐	紺谷 信一
----	---------------------	----	-------

部隊人員表

總人員 將校三、准士官一四〇、兵一〇〇、計二五三  
入院患者 二六名 (内訳、將校二、下士官三、兵二二)  
生死不明者 一名

578~

0881

1769

第二七師団ヲニ野戦病院畧

陸軍々医少佐 青柳良雄

年月日	概 要
昭五、二	<p>野戦病院の起源</p> <p>大陸緞貫作戦参加のため才ニ七師団才ニ野戦病院編成下令せられ北支那天津に於いて</p>
三、一	<p>編成才一目と定めらる 当時に於ける編成定員ニ七五名、馬匹七九頭、搬運車輛六八輛に依る車輛編成なり。</p> <p>野戦病院の編成</p>
昭五、三、一〇	<p>才ニ野戦病院編成完結せられ 同日編成担任官拔立候才凡九旅団長、</p> <p>人、検閲終了後、野戦病院の団結を完結す。</p>
昭五、四、五	<p>才ニ七師団長の兼下に入る。</p> <p>編成完結後の主要参加作戦警備及主要記事</p>

2626

1770



中支内 15

五二二	六三四	九百	八三三	七三六 七三八	七二二 七二八	七二七 七二九	七七一 七七三	七二二 七二八	五二五 五二六	五三三 五三一
湖南省收果深田野戦病院開設	湖南省茶陵果茶陵患者集合所開設	東部嶺陽道掃蕩作戦参加	江西省萍鄉果胡村患者療養所開設	江西省萍鄉果陳庄野戦病院開設	江西省萍鄉果油城鋪患者集合所開設	湖南省瀏陽果懸家亭野戦病院開設	湘桂作戦中一羽参加	河南省堰城果五里山岡野戦病院開設		京漢作戦に参加

597-

1771

中支外 31

昭五、三、二一 三、三、天	来陽附近警備
昭五、三、二九 三、三、天	安仁正面掃蕩戦参加
昭五、三、二八 三、三、三	湖南省求陽県求陽戦病院開設
昭五、三、二七 三、三、三	湖南省安仁県安仁患者療養所開設
昭五、三、二七 三、三、三	安仁附近の警備
昭五、三、二七 三、三、三	湖南省安仁県安仁野戦病院開設
昭五、三、二七 三、三、三	遂贛地区攻略作戦参加
昭五、三、二七 三、三、三	贛県米結並惠卅附近警備
昭五、三、二七 三、三、三	江西省南康県新患者療養所開設
昭五、三、二七 三、三、三	江西省南康県南康患者療養所開設
昭五、三、二七 三、三、三	廣東省曲江県長寮新村患者療養所開設

598

1772

四一八	三三〇	三三六	三三三、三一七	九一五	八三五	八三三	七六二	七六六	七四七	六八八	六八〇	五九七	五九四
復員	博多港上陸	出帆	上海集結	英錫集結	十四日附停戦の大詔を揮す	江西省新建県黃蓮嶺野戦病院開設	贛江患者療養所開設	江西作戰参加	江西省南康県南康野戦病院開設	廣東省連平県連平患者療養所開設	廣東省曲江県馬坝墟患者療養所開設	三南作戰参加	

1773

丁代衛院長氏名

代	在職期間	名
自昭一九、三、一〇 至昭二一、四、二〇	陸軍少佐	青標良雄

部隊人員表

總人員

將校一三、准士官下士官五八、兵一七三、計二四三

入院患者 二名

生死不明者 四名

甘多ルル

第二七師田中野戦病院累年

軍医少佐 林 二郎

年月日	概 要
昭十九年	<p>軍参備才一ヒロ号に基き中華民国河北省天津特別市興亜才一区米口兵營跡に於て編成完結初代病院長陸軍公医大尉林二郎食派せられ、茲に野戦病院の編成を完結す。</p>
昭十九、三、一〇	<p>才二七師田中下に入る。</p>
昭十九、三、一〇	<p>編成完結後の主要参加作戦整備及主要記事</p>
昭十九、三、一〇	<p>編成完結</p>
昭十九、三、一〇	<p>天津地区の整備</p>
昭十九、三、一〇	<p>勅令下</p>
昭十九、三、一〇	<p>京漢線戦参加</p>

~601~

1775

昭五 八八二	湘桂作戦参加
六三二 六二五	平江に於て野戦病院開設
六九 三三	東部衛陽随隊湯作戦参加
七 一四七	醴陵県域内に於て野戦病院開設
昭五 一、二 一、二	攸県附近の整備
昭九 三〇 一、二、九	攸県攸廿に於て野戦病院開設
二 二八	遂贛地区牧略作戦参加
二 二六	永新に一部を以て患者療養所開設
三 三二	贛州に野戦病院開設
三 三二	贛州附近の整備
五 七五	一部を以て三南作戦参加
五 七五	江西作戦参加

1776

昭和三十七

九一六

三三九

三二七

三二九

十四日附停戦の大詔を拜す。

常世地区に兵力集結

上海集結

上海港出帆

博多港上陸

歴代病院長氏名

初代	代	在任期間	官	氏名
至、二一、	自昭一九、三、	日	少佐 軍医	林 二郎

6032

1777

第二七师团病馬帳

大尉 島田泰三

年月日	概 要
昭三、五、九 六三一	<p>第二七师团編成要員として輜重兵才五隊に於て編成                  第二七师团編成下令せられ、                  部隊の編成完結</p>
昭三、七、二四 七、三五 一三五	<p>編成完結後の主要作戦整備及主要諸事                  部隊の編成完結す                  武漢作戦参加</p>
昭三、八、八 昭三、八、八 昭三、八、八	<p>河北省冀東道（渤海道）警備                  大東亞演習参加                  天津英租界進駐</p>
昭三、二、三三 昭三、二、三三	<p>冀東地区關正作戦参加</p>

6044



昭六七三	湖州口錦州省錦東に設駐
昭六七三	錦州附近の警備
昭七五	勅員下令
昭三九	京漢線戦に参加
昭二九	湘桂作戦に参加
昭一八	東部衛陽遼瀋蕩作戦に参加
昭三九	茶陵附近の警備
昭二九	遂寧地区攻路作戦に参加豫田附近警備
昭二八	贛州附近警備並に撫州附近警備
昭三一	三南作戦参加
昭七九	贛州附近警備
昭七六	江西作戦に参加
昭八	興錫地区に兵力集結

昭三、三、一七

三、二四

三、二八

四、七

上海集結

上海出帆

博多港上陸 復員式挙行

復員完結

厂代廠長氏名

代	在任期間	官	氏名
一	自昭三、五、五 至昭天、三、六	少佐	杉尾石哉
二	天、三、一 〃 六、三、三	〃	松山勉
三	〃 八、三、四 〃 三、四、七	大尉	島田素三

~606~

1780

第三四師団司令部略

師団長 陸軍中將 伴 健雄

年月日	概 要
昭和三一	編成下令
" 三二〇	編成完結（編成別紙第一）
昭和三三	編成地 大坂
" 四一三	中国派遣の爲大坂港出帆
" 四一三	漢口上陸
" 四一三	湖北省黄陂県黄陂附近着
" 四一三	加一大師団より警備を継承し師団司令部は黄陂に位置し黄陂新卅、黄安、麻城、孝感附近警備
" 四一三	湖北省七里坪附近の作戦実施
" 四一三	黄陂附近警備を加三十九師団に引継ぎ、江西省南昌に移駐の爲、黄陂附近出

昭和三十四年 二月中旬	江西省南昌到着
昭和三十四年 四月二日	加百一師田より同地附近の警備を継承し師田司令部は南昌県城内に位置し南昌周辺の警備に任ず
昭和三十四年 四月二日	加一旅錦江作戦（江西省高安上高附近）に参加
昭和三十四年 四月二日	奉新攻略戦（江西省奉新附近）を実施
昭和三十四年 四月二日	加二旅錦江作戦（江西省高安附近）に参加
昭和三十四年 四月二日	浙贛作戦（江西省進賢、臨川、資溪、附近）に参加
昭和三十四年 四月二日	江北疎麻作戦（江西省第江北岸地区）に参加
昭和三十四年 四月二日	編成改正下令（軍令陸甲カ三カ号）
昭和三十四年 四月二日	編成完結（編成別紙カ二）
昭和三十四年 四月二日	南昌附近警備を独立歩兵カと旅団に引継ぎ湘桂作戦参加の爲南昌附近出發

昭五、四、三九 一三三	昭五、一、一 三二六	丑一七 七、七	昭五、六、一〇	六一一	八五	九一六	昭三、一、中旬
湘桂作戰終 全県附近警備	湘西作戰参加	宝慶附近に於て湘桂作戰を終了し同日中旬宝慶附近に出発軍令に依り宝慶—易俗河—瀏陽—蕩敷—上高—安義道を安義と白河前進八月上旬安義に進出	先頭梯団を以て同越出発	九江に到着	尔后一部を以て水路、主力を以て揚子江北岸道を浦口に白河前進し	浦口附近に集結を終る	内地帰還の爲上海集結の軍令に依り一月一日先頭梯団を以て鉄道輸送に依り浦口出発

7609

	<p>一三〇 昭三、一三一 昭三、</p>
	<p>最後拂田を以て上海到着、同地に兼結を終る。 先頭拂田を以て上海出発後還航送附始 復員完結</p>

6105

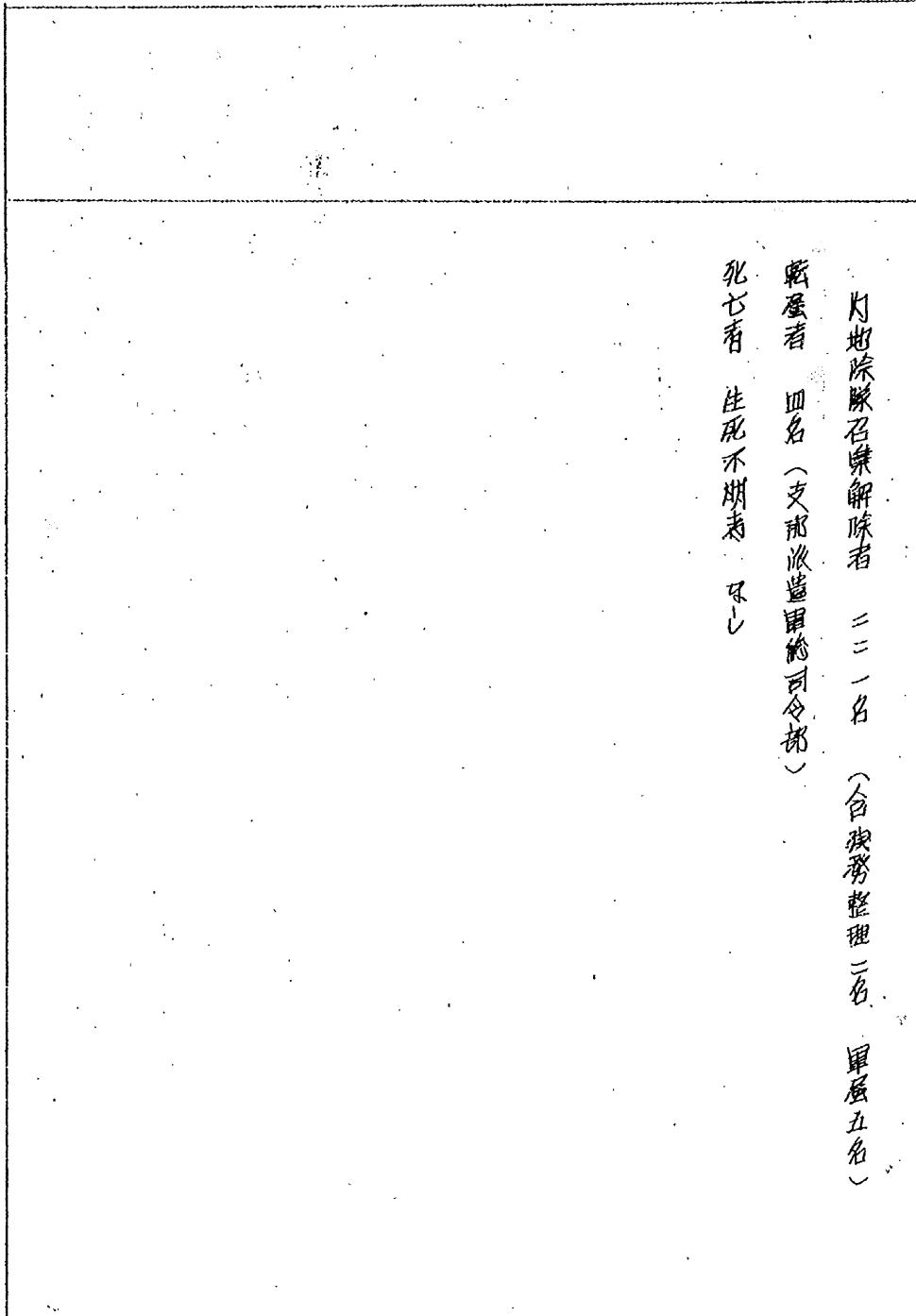
1784

第三四師団司令部の一部要

陸軍大尉 松永正之

年月日	
概要	<p>縮成 部隊長以下二三四名</p> <p>行動</p> <p>吳淞に於て乗船の爲め師団司令部主力と分離</p> <p>吳淞出港</p> <p>上海着</p> <p>上海よりV621に乗船</p> <p>途中異常なし</p> <p>同軍三月九日揚子に上陸</p> <p>同日係隊名簿解除夫々帰郷地に出発</p> <p>係隊名簿解除者 九名(軍医八名)</p>

1785



内地除隊召喚解除者 三二一名 (合強務整理二名 軍属五名)  
 戦傷者 四名 (支那派遣軍總司令部)  
 死亡者 生死不明者 不明

3  
 2  
 2  
 2

412

1786



第三師團司令部山砲兵隊畧史

年月日	概 要
<p>昭二五、 七、一</p>	<p>当隊は師團編成改組により野砲兵中三四聯隊の一部を以て編成完結せり。(定員一一大名)</p> <p>尔后南甯附近の討伐並に對陣に任ず、又主力を以て歩兵中二一八聯隊に配属を命ぜられ東南地区河漫野作戦を命ぜられ常態機動作戦に參加す。</p> <p>引籠ぎ歩兵中二一六聯隊に配属を命ぜられ常態機動作戦に參加す。</p> <p>復帰后は南甯に駐せし教育訓練に任じ居りたる(昭二九、四、二五迄)</p> <p>湘桂作戦参加のため南甯出發大治に集結を命ぜられ、</p> <p>全地に於て之ヲ九野戦備隊より下士官以下一三名の補充を受く。</p> <p>長沙岳麓山攻陣に參加引籠ぎ蓮花茶陵、安仁、耒陽、全原に戦戦す。</p>
<p>九三二 五八</p>	
<p>昭二六、 五、二二</p>	
<p>昭二六、 五、二六</p>	
<p>昭二六、 五、二五</p>	

昭和三十九

三二五

六一一

六二六

六一七

六一八

六一九

九二五

昭三、二一三

二一五

金原自沙郷梅郷村に於て師田洋二次補充要員中より兵五四名（内二九名着）

水頭村に於て洋三次補充要員中より四り名（内二二名着）の補充を受く。

湘西作戦参加のため全県出発

藤橋に於て少尉砲兵五名（内四名着）七月二日長沙県渡頭市に於て初年兵

二七九名（内九七名着）の補充を受け勞務に向う敵中突破作戦に参加す。

九江県九江に於て終戦の御勅勅を拝す。

小池口に於て見習士四名並に退院患者二り名を管理す。

小池口出発 浦口に向い前進す。

浦口東北方一五軒謝家荘附近に駐留要員業務を突絶待命し居り。

上海出帆

博多港に上陸せり。

我務整理要員 本籍 現住所在地の區り。

左 記

本籍 和歌山県和歌山市新中區一丁目二番地

現住所

稲垣 正 雄

~614~

1788